林業普及指導事業外部評価検討会資料

課題名：森林作業道の作設技術の向上

西部総合事務所日野振興センター
普及担当　普及主幹　佐々木明仁

説明内容

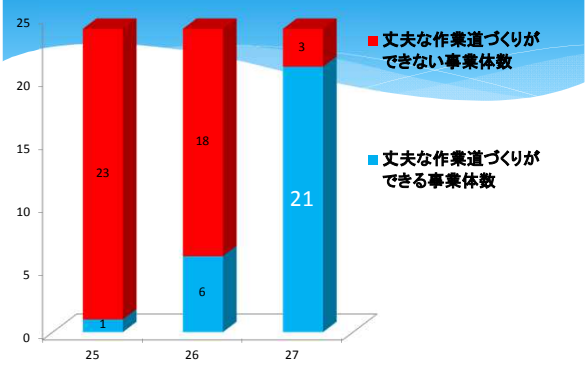
1　普及課題の概要
　（1）課題を取り上げた背景
　（2）普及対象毎の課題
2　普及計画、活動実績・主な成果、評価
3　普及対象の変化等
　　新しい動き
4　今後の対応

課題を取り上げた背景

■技術指針に合致した繰り返し使用に耐えうる丈夫な作業道作設が必要。
■盛土の転圧・排水施設等の不十分な作業道があり、継続して利用できるものになっていない。
■路面の亀裂や崩壊の発生など施工不十分な作業道は、林地災害の発生の恐れがある。

■林地災害の恐れって？
　実際に見てみましょう！

今年度の到達目標



普及対象毎の課題

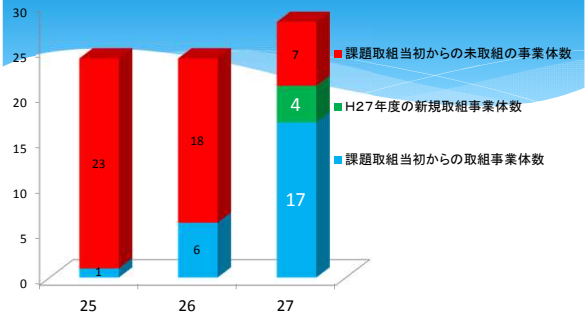
課　　題	普及対象	
	林業事業体	オペレータ
①丈夫な作業道づくりの方法を知らなくて、施工できないオペレータ対応。	●	●
②丈夫な作業道づくりの方法は知っているが、施工不十分なオペレータ対応。		●
③作業道作設指針・実施基準等の徹	●	●

普及計画及び活動実績

普及計画		活動実績		評価
計画内容・手段	到達目標	実績内容	達成状況	
作設指針等説明会の開催	作設指針に合致した作業道づくりができる林業事業体数 24事業体の9割相当の21事業体	作設指針・施工ビデオ・現地見学等により、丈夫な作業道づくりを説明した。 （参加者：14事業体等24名）	作設指針に合致した作業道づくりができる林業事業体数 ■目標時点の事業体ベース 17事業体／24事業体＝7割 ■追加事業体ベース 21事業体／28事業体＝約8割	B
鳥取式作業道講習会の開催		室内研修2日及び現地実習3日により、鳥取式作業道の基礎内容を研修伝達した。 （参加者：6事業体12名）		
フォローアップ研修会の開催		室内研修1日及び現地実習3日により、作設技術の向上を図った。 （参加者：5事業体9名）		
巡回指導		巡回指導 （対象：オペレータ等46回、延べ人数69名）		
個別指導		個別指導 （対象：オペレータ等21回、延べ人数30名）		
個別研修		個別指導 （対象：2事業体　オペレータ等7名）		

普及方法

丈夫な道づくりに取組める事業体の推移



取組率　4%　→　25%　→　75%

補助対象事業（鳥取式作業道作設）実績

年度	事業体数（実数）	路線数	作設延長（m）
25	1	2	1，200
26	6	17	14，800
27	6	8	9，050

研修状況（作設指針等説明会）

研修状況（鳥取式作業道講習会）

研修状況（フォローアップ研修）

巡回指導状況

個別指導状況
（許認可担当・補助金担当との連携指導）

個別指導状況
（座学・現地指導）

普及対象の変化等

＜新しい動き　その1＞

■丈夫な作業道づくりに取り組まないとの意向を示していた林業事業体から3名の受講生あり。

受講オペレータの声・・・研修内容を現場で応用していきたい。

普及対象の変化等

＜新しい動き　その2＞

■2事業体から個別座学研修の実施依頼。

→研修内容の理解具合を確認しながら説明が可能。

→タブレット等を活用した現場指導を実施。

■林業事業体内部でOJT化

→先輩オペレータが新米オペレータを作設指導。

普及対象の変化等

＜新しい動き　その3＞

■丈夫な作業道作設オペレータを有する林業事業体への外注化

今後の対応

■県関与を徐々に小さく。

必要箇所のフォローアップ・オペレータのスキルアップを図る。

県の関わり具合

■作設途中の状況確認の励行。

今後の対応

項目	取組内容
巡回指導	■作設中の作業道現場を廻り、作設指針に合致した作業道づくりについて林業事業体・オペレータを指導 （盛土の転圧、盛土勾配、水切り　など）
各林業事業体毎へ個別訪問指導	■丈夫な作業道づくりに取り組まない林業事業体へ個別訪問し、取り組まない理由等の聞き取り・作設指針・作業道路肩崩壊ビデオ等の説明指導 （施工方法の振り返り、何が問題だったのか林業事業体自ら気づき、次回現場に活かせるよう指導）
	■作設の不十分な林業事業体へ個別訪問し、作設指針等の説明指導 （施工方法の振り返り、何が問題だったのか林業事業体自ら気づき、次回現場に活かせるよう指導）

これからも丈夫な作業道づくりを
推進していきます。
ご静聴ありがとうございました。